

経済教室

私見
卓見

パスワードからの脱却を

テックファーム技術顧問 小林 正興

いままで携帯電話の情報サービスをはじめ、数々のシステム設計に携わってきた。不正利用が相次いだQRコード決済サービスの根

底に、総合的な安全性の視点が欠けているのではないか、との危機感はぬぐえない。不正利用が起きる背景のひとつには、短期間に導入が広がり、利用者にも店舗にも運営ノウハウが不足していることがある。だがQRコードに集中して問題が発生する最大の原因は、クラウド上の情報だけに依存し、物理的な本人確認の仕組みが不徹底なことだ。

これまで実店舗を対象とした決済サービスは、クレジットカードやプリペイドカードをはじめとした「実物のある」価値証明を原理とするものが大半だ。原則は不正

利用を防ぐために実物を提示し、本人性を確認するための補助的な認証機能はあっても、暗証番号4桁程度が使われてきた。

一方、QRコード決済サービスの本質はクラウドサービスだ。スマートフォンを通して決済をする

が、持ち主が所有することを示す実物に相当するものは何もない。IDとパスワードがあればすぐに使い始められるため、不正な「なりすまし」を防ぐ複雑なパスワード設定が必要となる。

しかし、多くのサービスで個別のパスワードを設定し、書き残さずに忘れない前提は非現実的だ。安全の責任を利用者に押しつけ、形式的な安全性だけを高めても、安全なサービスは実行できない。

2段階認証やハードウェアセキ

ュリティーキーの利用が世界で広がる背景には、パスワード依存への危機感がある。ICチップに十分な長さの秘密情報を記録しパスワードの代わりに利用すれば、「実物」として本人性確認ができ、電子マネーの所有が目に見えるようになる。不正利用は困難だ。

日本国内では、クラウドサービスの脱パスワードは大きく後れを取っている印象を受ける。皮肉なことに、ハードウェアセキュリティ機能を持ったICチップは、スマートフォン用のSIMカードを中心にICカード型電子マネーなど広く普及している。ICチップを活用し、パスワードからの脱却をはかり、安全で安心なキャッシュレス決済の基盤をつくることが求められている。

当欄は投稿や寄稿を通じて読者の参考になる

意見を紹介いたします。〒100-8066東京都

千代田区大手町1-3-7日本経済新聞社東京

本社「私見卓見」係またはkaisetsu@nex.nik

kei.comまで。原則10000字程度。住所、氏

名、年齢、職業、電話番号を明記。添付ファイ

ルはご遠慮下さい。趣旨は変えずに手を加える

ことがありません。電子版にも掲載します。